

前章でも述べた通り、文字通り、比喩的、そしてグレーゾーンという考え方は、私たちが英語を学び、使うのに役立ちます。この章では、英語でごくありふれた動詞であり、数多くの句動詞で使われているgoとcomeを用いて、それを確認したいと思います。goとcomeの句動詞が文字通りの意味や比喩的な意味でどの程度使われているのかを見るのは非常に興味深いことです。

p.126からのリストで示したgoとcomeを用いた句動詞と、文字通り、比喩的、グレーゾーンの概念に関しては一般的な規則があります。それはすなわち次のようなものです。

- goとcomeの句動詞は文字通りになればなるほど、それらの日本語訳は「行く」や「来る」(あるいは「出る」「回す」などのような具体的な動作動詞)を使うことが多くなる。
- 逆に、句動詞が抽象的(比喩的)であればあるほど、日本語訳は日本語の動作動詞とは全く関係がない可能性が高くなる。

このことをリストの例をいくつか用いて確認してみます。

▶ 文字通り(具体的)

- **Go ahead** and just follow the road. >> 行く
「まっすぐ(行って)道なりに行ってください」
- **go around** to Peter's to have a drink >> 行く
「一杯やりにちょっとピーターの家に行く」
- **go around** the obstacles in the road >> (避けて) 行く
「道路の障害物を迂回する」
- see a man with a gun **coming along** the road >> 来る
「銃を持った男が道をやって来るのが見える」
- **come by** to visit someone >> 来る
「誰かを訪ねて来る」

▶ グレーゾーン

- There is enough food to **go around** everyone. >> 行き渡る
「みんなに行き渡るだけの食料がある」
- **go back** to living with your family >> また~する
「また家族と一緒に暮らし始める」
- **come away with** a favourable impression of someone
「誰かに好意的な印象をもって去る」 >> もって去る
- She **comes of** a very aristocratic family.
「彼女は大変な貴族家系の出だ」 >> ~の出だ

▶ 抽象的(比喩的)

- **go against** my instructions >> 逆らう
「私の指示に逆らう」
- **Go ahead** and take whatever you want. >> どうぞ
「どうぞお好きなものをお取りください」
- **come out** against this idea >> 反対する
「この案に反対する」
- A strange premonition **came over** me. >> 予感する
「変な予感がした」

このシステムを使用すれば便利な「学習テンプレート」になります。またこれは、「go = 行く」といった単純な思考方法から離れて、柔軟で創造的なやり方で言語を見たり、学んだり、使ったりするのにも役立ちます。

リストでは、左端に文字通りの例、右端に比喩的な例が配置されています。どちらか決めがたい、グレーゾーンにある例はこの2つの間にあります。このリストが、特にグレーゾーンの例に関しては、いくぶん私の判断によるものであることは言うまでもありません。